

株主の皆様へ



代表取締役社長

黒田 浩史

■ごあいさつ

株主の皆様には、格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに当社第68期中間期（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年12月

こうした状況下、当社グループにおいては、主要顧客の一つである半導体業界の減速の影響等も相俟って、受注高は5,422百万円（前年同期比1,557百万円、22.3%減）と大幅な減少となりました。

しかしながら、売上高は震災前の受注残に支えられ6,314百万円（前年同期比962百万円、18.0%増）の結果となりました。

また、利益面に関しては、コスト抑制等に努めた結果、経常利益574百万円（前年同期比229百万円、66.5%増）、四半期純利益389百万円（前年同期比109百万円、39.1%増）となりました。

■当第2四半期連結累計期間の概況

当該期間におけるわが国経済は、東日本大震災により寸断されたサプライチェーンの復旧にともない本格的な回復が期待されておりましたが、新興国における金融引き締め、米国債の格下げ、ギリシャ国債に端を発したユーロ圏の金融不安等によって世界的に経済が減速傾向となり、加えて円高の長期化が日本企業の足枷となって、当社を取り巻く経営環境は厳しいものとなりました。

■通期の見通し

第2四半期連結累計期間は、当初見込みを超える利益を計上することができました。

しかしながら、第3四半期連結会計期間以降は、金融不安等によって世界経済の先行きが不透明な状況にあることから、現時点における業績予想は期初予想を変更せず、売上高13,500百万円、営業利益960百万円、経常利益1,100百万円、当期純利益1,030百万円と予想しております。



■ 駆動システム

震災による部品のサプライチェーンの混乱、中国における金融引き締めによる設備投資案件の縮小等の影響を受け、受注高は2,172百万円(前年同期比1,119百万円、34.0%減)と大幅に減少しました。しかしながら、震災以前の受注残と増産対策が寄与し、7月には史上最高の月次売上高を記録し、増収を実現することができました。

当セグメントの売上高は2,821百万円(前年同期比376百万円、15.4%増)、営業利益は455百万円(前年同期比151百万円、49.8%増)の結果となりました。

売上高 **2,821** 百万円



韓国黒田精工体制拡充

設立以来順調に事業が拡大してきた「韓国黒田精工」において倉庫を拡充するなど、短納期要求に対し即納体制を整えました。

■ 金型システム

モータコア金型の主要顧客である電機メーカーや車載モーターメーカーからの更新金型需要は、省電力化やレアアース削減等を目的に底堅い動きがあったものの、金融引き締めによる中国顧客の需要減少、円高による国内顧客の減産、震災による自動車生産ラインの休止等の影響を受けたことにより前年同期に対し受注、売上ともに減少いたしました。

当セグメントの受注高は1,380百万円(前年同期比298百万円、17.8%減)、売上高は1,308百万円(前年同期比45百万円、3.3%減)、営業損失は78百万円(前年同期は営業利益31百万円)の結果となりました。

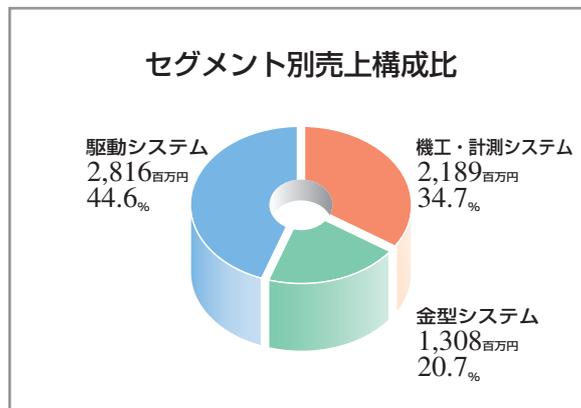
売上高 **1,308** 百万円

車載搭載駆動モータコア

車載搭載駆動モータコアが本田技研工業株式会社殿の「シビック ハイブリッド」「インサイト」「CR-Z」「フィット ハイブリッド」に続いて「フリード ハイブリッド」用の駆動モータコアに採用されました。



「フィット ハイブリッド」
2010-2011日本自動車殿堂カーオブザイヤーを受賞



(注) セグメント別売上構成比は内部売上高を除いて表示しております。

■ 機工・計測システム

震災や中国の金融引き締めの影響によりツーリング、ゲージ等の受注が大幅に減少したものの、工作機械が特定ユーザー向けの売上に支えられたことや半導体材料メーカー向けに超精密表面形状測定装置の売上が増加したことによりセグメント全体では大幅な増収となりました。

当セグメントの受注高は1,934百万円(前年同期比73百万円、3.7%減)、売上高は2,249百万円(前年同期比696百万円、44.8%増)、営業利益は135百万円(前年同期は営業損失74百万円)の結果となりました。

売上高 **2,249** 百万円

ハイドロリックマンドレル

高精度のワーククランプが実現できるツールとして、歯車等の精密部品の加工、検査分野等で用いられています。最近では電気自動車の駆動用モータの高精度モータの試作で用いられるなど、新しいアプリケーションも広がっています。



精密成形平面研削盤 GS-45FLhs

精密部品の高効率加工用に高速往復ストロークを自由自在に設定できる研削盤の新シリーズを開発し発売を開始しました。

断面形状測定装置

ナノメートルTT、FTTシリーズでの豊富な実績をもとに機能を絞り込んだコンパクトな装置構成とした断面形状測定装置CRシリーズを開発、ラインナップに追加いたしました。

シリコンウェーハのみならず、SiC基板、サファイヤ基板等の、厚さやSORI測定に威力を発揮いたします。



トピックス

■ 中国体制強化

中国の金型事業の現地法人として従来運営している「平湖黒田精工」に、7月よりボールねじ、ツーリング、ゲージ、工作機械のマーケティング要員の駐在を開始しました。

同社を拡大が期待される中国における市場開拓の中核拠点として位置づけて体制を強化するとともに、今後は生産体制の拡充についても検討を進めていきます。



■ 計測実習室の開設

社内研修の他、お客様にも精密計測の実習をしていただける計測実習室を、富津工場研修センター内に開設しました。当社の中核技術である精密計測のトレーニングに幅広く活用してまいります。



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期末 平成23年9月30日現在	前 期 末 平成23年3月31日現在
(資産の部)		
流 動 資 産	9,248	9,043
固 定 資 産	9,709	9,770
有 形 固 定 資 産	7,591	7,620
無 形 固 定 資 産	118	119
投 資 そ の 他 の 資 産	1,999	2,030
資 産 合 計	18,957	18,814
(負債の部)		
流 動 負 債	6,383	6,435
固 定 負 債	6,047	6,082
負 債 合 計	12,430	12,518
(純資産の部)		
株 主 資 本	4,998	4,694
資 本 金	1,875	1,875
資 本 剰 余 金	1,451	1,451
利 益 剰 余 金	1,679	1,374
自 己 株 式	△6	△6
その他の包括利益累計額	1,369	1,447
その他有価証券評価差額金	141	226
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	△1	—
土 地 再 評 価 差 額 金	1,314	1,314
為 替 換 算 調 整 勘 定	△84	△93
少 数 株 主 持 分	157	154
純 資 産 合 計	6,526	6,296
負 債 ・ 純 資 産 合 計	18,957	18,814

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期累計期間 平成23年4月1日～ 平成23年9月30日	前第2四半期累計期間 平成22年4月1日～ 平成22年9月30日
売 上 高	6,314	5,352
売 上 原 価	4,655	4,088
売 上 総 利 益	1,659	1,263
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,166	1,005
営 業 利 益	492	258
営 業 外 収 益	207	226
営 業 外 費 用	125	139
経 常 利 益	574	345
特 別 利 益	0	8
特 別 損 失	31	25
税金等調整前四半期純利益	543	328
法人税、住民税及び事業税	28	17
法人税等調整額	122	25
少数株主損益調整前四半期純利益	391	285
少 数 株 主 利 益	2	6
四 半 期 純 利 益	389	279

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期累計期間 平成23年4月1日～ 平成23年9月30日	前第2四半期累計期間 平成22年4月1日～ 平成22年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	789	472
投資活動によるキャッシュ・フロー	△238	△44
財務活動によるキャッシュ・フロー	△92	△867
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	△11
現金及び現金同等物の増減額	466	△451
現金及び現金同等物の期首残高	3,289	3,667
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,755	3,216

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

■会社の概要

商号	黒田精工株式会社
本店	神奈川県川崎市幸区下平間239番地
創業	1925年(大正14年)
資本金	18億75百万円
従業員数	433名

■連結対象会社の状況

連結子会社	持分法適用関連会社
クロダイインターナショナル株式会社	株式会社ゲーシング
クロダプレジジョンインダストリーズ(M) (マレーシア)	日本金型産業株式会社
平湖黒田精工有限公司(中国)	クロダニューマティクス株式会社
永昇電子株式会社	株式会社TKG
韓国黒田精工株式会社	

■当社グループの主要な事業

セグメント	主要製品
駆動システム	精密研削ボールねじ、転造ボールねじ、ボールねじアクチュエータ、XYステージ
金型システム	積層精密プレス型、モータコア型、精密金属プレス製品
機工・計測システム	ツーリング、保持工具、ゲージ、平面研削盤、超精密鏡面研磨装置、超精密表面形状測定装置、電子機器、コンプレッサ

■株式の状況

発行可能株式総数	74,800,000株
発行済株式の総数	28,100,000株
株主数	2,379名

■所有者別株式分布状況



■大株主

株主名	株式数(千株)	持株比率(%)
パーカー ハネフィン ユーケー	9,400	33.48
株式会社みずほ銀行	1,381	4.92
黒田 浩史	1,169	4.16
黒田精工取引先持株会	782	2.78
株式会社横浜銀行	748	2.66
中央三井信託銀行株式会社	616	2.19
朝日生命保険相互会社	500	1.78
日本生命保険相互会社	443	1.57
株式会社損害保険ジャパン	412	1.46
日本トムソン株式会社	355	1.26

*持株比率は自己株式(30,620株)を控除して計算しております。

■株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	毎年3月31日
定時株主総会・期末配当	電子公告により、当社のホームページに掲載します。
公告方法	http://www.kuroda-precision.co.jp/ ただし、やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人(※1)
東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
取次事務は、中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。(※2)

(お知らせ)
(※1) 当社の株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社は、関係当局の許可を前提に、住友信託銀行株式会社、中央三井アセット信託銀行株式会社と平成24年4月1日をもって合併し、「三井住友信託銀行株式会社」となります。なお、平成24年4月1日(日)は、株主名簿管理人の休業日につき、実際のお取扱いは、平成24年4月2日(月)からとなります。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

特別口座 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 (住所、電話番号の変更はございません)

(※2) 日本証券代行株式会社による取次事務につきましては、平成24年3月末をもって終了させていただきます。

■株式に関するお手続きについて

○証券会社等の口座に登録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先
郵便物等の発送と返戻に関するご照会	株主名簿管理人 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL. 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
支払期間経過後の配当金に関するご照会	
株式事務に関する一般的なお問合せ	
上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

○特別口座に登録された株主様の株式に関する各種お手続きに関しましては、中央三井信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、下記へお問合せください。

お問合せ先 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

[手続き書類のご請求方法]

- ・音声自動応答電話によるご請求 0120-87-2031 (フリーダイヤル)
- ・インターネットによるダウンロード http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

黒田精工株式会社

本社 / 〒212-8560 神奈川県川崎市幸区下平間239番地
TEL / 044-555-3800 (代表) FAX / 044-555-3524
<http://www.kuroda-precision.co.jp/>

